

メッセージ：今まで一度も行ったことのないところ

OIC の皆様おはようございます。
ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

前回のヨシュア記のメッセージで、私は次のようなコメントで締めくくりました：
イエス様と共に栄光の中でとこしえに生きる私たちの最終的な平安と安全は、イエス様が私たちの罪のための血の犠牲として神様に完全に従順であられたことに全面的にかかっています。私たちはイエス様が私たちの罪のための血の犠牲として神様に完全に従順であられた御業を増やすことはできないし、私たちの失敗が奪うこともありません。主イエス様は十字架の上で、死の最後の息の中で、私たちのためにこう叫ばれました。

<ヨハネの福音書 19 章 28 節 - 30 節>

28 こうして、何もかもすっかり終わったことを知ったイエスは、「わたしは渇く」と言われました。これも聖書のことばどおりの出来事です。

29そこには、ちょうど酸っぱいぶどう酒のつぼが置いてありました。人々は海綿を浸し、ヒソプの枝の先につけて、イエスの口もとに差し出しました。

30それをお受けになると、最後に、「すべて成し遂げた」とひとこと叫び、頭を垂れて息を引きとられたのです。

そうです。イエス様と共に栄光の中でとこしえに生きる私たちの最終的な平安と安全は、イエス様が私たちの罪のための血の犠牲として神様に完全に従順であられたことに全面的にかかっています。しかし、私たちはしばしば、この地上での人生の旅で平和と安全のために苦闘します。私たちがこの地上を去った後、イエス様とともにいる最終的な安全への確信は、明るい朝日のように、日々の悩みを照り返します。しかし、明日の不安は、死そのものに直面するよりも重いことが多いです。主イエス様は、100%神様であられたのに 100%人間的な感情を持たれたので、明日の不安は、死そのものに直面するよりも重いことが多いことを知っておられます。神様は、あなたがこの道を来たことがないことを知っておられます！

今日私たちは、勇気と大胆さに満ち、神様の民イスラエル人を約束の地を征服し支配するために導くヨシュアを見ています。前回の私のメッセージの聖書朗読は、エリコの遊女ラハブがイスラエル人の二人のスパイから自分と家族の身の安全のための条件を受け入れるところで終わりました。窓から吊り下げる緋色の糸は遊女ラハブと彼女の家族を守る道標でした。<ヨシュア記 2 章 21 節>を読みます。

<ヨシュア記 2 章 21 節>

21 「そのとおりにするわ。」 こうしてラハブは、窓に赤いひもを結びつけました。

イスラエルのスパイたちはラハブの賢明な指示に従い、追いかけてくる兵士たちから逃れた後、ヨルダン川を渡ってヨシュアのもとに戻りました。

<ヨシュア記 2 章 22 節-24 節>

22 二人の偵察者は山へ逃げ、三日間身を隠しました。追っ手は二人を捜し回りましたが、ついに見つけることができず、すごすごと町へ引き返して行きました。

23 その後、二人は山を下りてヨルダン川を渡り、ヨシュアのもとへ帰って一部始終を報告しました。**24** 「主は、あの地を全部、われわれに下さいます。間違いありません。住民はみな、われわれを死ぬほど恐れているのです。」

【覚えておくべき重要点】 #1

葛藤の中で自信を持つには勇気が必要です。敵が私たちが恐れていることを知ることは、私たちにより大きな自信を与えてくれます。敵がイスラエルの神様を恐れていることを知ることがイスラエルのスパイたちに自信を与えました。

<ヨシュア記 2 章 22 節-24 節>

「主は、あの地を全部、われわれに下さいます。間違いありません。住民はみな、われわれを死ぬほど恐れているのです。」

敵が私たちが恐れていることを感じるのは難しいですが、イエス様の宿敵であり、私たちの宿敵でもある悪魔は私たちが恐れています。悪魔は嘘つきだから、悪魔が私たちが恐れていることを認めることはないでしょう。使徒ヨハネは私たちの確信を高めてくれます。

<ヨハネの手紙 I 4 章 4 節>

愛する子どもたち。あなたがたは神の側につく者として、キリストに敵対する者と戦い、すでに勝利を収めてきました。それは、あなたがたのうちに、この世にいるどんな悪い教師よりも、はるかに強い方がおられたからです。

【イスラエルの民、ヨルダンを渡る -新たなる冒険】

<ヨシュア記 3 章 1 節 - 4 節>

1 翌朝早く、ヨシュアに率いられたイスラエル人は、シティムを出発し、夕方にはヨルダン川の岸に着きました。川を渡る前に、そこに幾日かとどまりました。

2 ・ 3 ・ 4 三日目に、指導者たちは野営地を巡って、人々に次のような命令を伝えました。「主の契約の箱（十戒を記した石板が納めてある）をかついでいる祭司たちの姿が見えたら、あとに従いなさい。これから行く所は見知らぬ地だから、祭司が先導するのです。ただし、箱との間は、二千キュビト（約九百メートル）の距離を保ちなさい。それより近づいてはなりません。」

【聖書の箱舟】

聖書には2つの箱舟が登場します：ノアの箱舟と契約の箱です。「箱舟」を意味する2つのヘブライ語---「ノアの箱舟」はノアの箱です。「契約の箱」は、箱の中に物を集めるという意味を持つ櫃です。箱舟に両方の言葉が使われているのは、主がそれぞれの箱舟に収められるように選ばれたものを集めるためであり、一方は命のため、もう一方は神聖さのためです。 <創世記 7 章 11 節 - 15 節>を読みます。

<創世記 7 章 11 節 - 15 節>

(10)・11・12 一週間後、ノアが生まれて六百年と二か月十七日たった日のことです。大雨が降り始め、地下水までが勢いよく吹き出してきました。四十日の間、昼も夜もそんな状態が続きました。

13 しかし、まさにその日にノアは、妻と息子セム、ハム、ヤペテとその妻たちを連れて船に乗り込んだのです。

14・15 家畜といわず野生のものといわず、あらゆる種類の動物、はうもの、鳥もいっしょでした。

そこで神様は「ノアの箱舟」のために、大洪水を生き延びるために選ばれた、呼吸するすべての生き物を箱舟に集めました。私たちは、契約の箱に関する神様の計画を次のように見えています。

<出エジプト記 25 章 10 節 - 22 節>

10 まずはアカシヤ材を使って長さ二キュビト半（一・一メートル）、幅一キュビト半（六十六センチ）、高さ一キュビト半の箱を作りなさい。

11 内側にも外側にも純金を張り、周囲に金の縁飾りをつける。

12 金の環を四つ作り、箱の下の方隅につける。片側に二個ずつ。

13・14 アカシヤ材で棒を作って金をかぶせ、箱の両側につけた金の環に通してかつげるようにする。

15 棒は取りはずさず、差し込んだままにしておかなければならない。

16 わたしが与える十のおきて（十戒）を記した石板を、その箱に納めなさい。

17 “また、純金のふたを作りなさい。長さ二キュビト半、幅一キュビト半にする。これは罪を赦す神の恵みの座となる。

18 次にふたの両端に、一對の天使の像を槌で打ち出して作る。

19 それは『恵みの座』の一部分で、その両端になる。

20 ケルビムというその天使の像は、互いに向かい合って『恵みの座』を見下ろし、翼が金のふたを覆うようにしなければならない。

21 ふたができたら箱にかぶせる。箱には十のおきてを記した石板を納めなさい。

22 わたしはそこであなたに会い、ケルビムにはさまれた『恵みの座』からあなたと語る。箱にはわたしの契約のおきてを納める。わたしはそこから、イスラエルの人々に命じることをあなたに伝える。

ユダヤ教では、神様のものであり、一般の人が触れてはならないという意味で聖なるものがありました。（聖書時代のマナーと習慣, M&C). 主はモーセと祭司たちに、主の聖なるものに触れてはならないと命じられました。イスラエル陣営が移動するためには、ケハテ人（古代イスラエルのレビ族の3つの主要な部門の1つであったケハテ家の一員）を含む特定の祭司が主の聖なるものに触れることが許されていました。レビ人だけが、持ち手に差し込んだ長い棒で契約の箱を安全に運ぶことができました。<民数記 4 章 15 節>を読みます。

<民数記 4 章 15 節>

別の場所に移動するときはいつでも、アロンとその子らが聖所と用具をみな包み終えたら、ケハテ族がそれを運ぶ。しかし彼らは、神聖な用具にさわることはできない。少しでもさわれば死ななければならない。以上がケハテ族の仕事である。

主の聖なるものに関して主が要求されるその命令に従うことが、ヨシュアとともに指導者たちがイスラエルの民に祭司たちから距離を置くよう指示した理由です。

<ヨシュア記3章(2)・(3)・4節>

2・3・4 三日目に、指導者たちは野営地を巡って、人々に次のような命令を伝えました。「主の契約の箱（十戒を記した石板が納めてある）をかついでいる祭司たちの姿が見えたら、あとに従いなさい。これから行く所は見知らぬ地だから、祭司が先導するのです。ただし、箱との間は、二千キュビト（約九百メートル）の距離を保ちなさい。それより近づいてはなりません。」 ”

しかし、契約の箱は多くの点で全ての中の最も重要なものでした。ケルビムというその天使の像は、互いに向かい合って『恵みの座』を見下ろし、翼が金のふたを覆うように木製の箱の上にあります。ケルビムは神様の天使です。契約の箱はオーバーヘッドにある聖書のコピーの写真のようなものでした。しかし、ネブカドネザル王が紀元前 586 年頃にエルサレムに侵攻し略奪した後、契約の箱そのものを見ることはありませんでした。箱の大きさは 120 センチ×60 センチ×60 センチほどでした。その中には、十戒の石板 2 枚、マナの壺、アロンの杖が入っていました。マナとは、主が荒野でイスラエルの民のために毎晩作ってくださった奇跡の食べ物です。アロンの杖は、アロンの告発者たちに対してアロンの認められた司祭職を神様とともに証明するために、芽吹いた新しい葉がありました。契約の箱は、人々の理解のために、ケルビムの翼の上に座し、神様の御声が契約の箱の上から来られた、目に見えない神様のための王座でした。<出エジプト記 25 章 22 節>に見られるように、万物を満たす神様は、神様が愛する人々が神様との関係を持つために必要なものに、ご自身の存在をしばしば適合させられました。

<出エジプト記 25 章 22 節>

22 わたしはそこであなたに会い、ケルビムにはさまれた『恵みの座』からあなたと語る。箱にはわたしの契約のおきてを納める。わたしはそこから、イスラエルの人々に命じることをあなたに伝える。

しかし、主は限りない愛と憐れみにおいて、人々が本当に主を求めるならば、その人がいる場所で出会うことを選ばれます。神様は、神様の忠実な民でさえ神様への信仰関係に注力するために物理的な物が必要であることを知っておられました。この記述は、カナンで圧倒的な数の敵に勇敢に立ち向かっているイスラエル民族にとって、契約の箱の重要性と必要性を私たちが理解するために重要です。信仰の父、アブラハムには神様の声しかなかったことを私たちが留意することもまた重要です。神様はご自身の約束を説明するために、空に輝く星の数を用いられましたが、物理的なものではありません。同様に、モーセは天使たちによる奇跡、燃え尽きることのない燃える柴がありましたが、モーセと一緒に持つて行く聖なるものはありませんでした。主は羊飼いの杖を奇跡のために奇跡をおこす道具とされました。モーセがこの奇跡をおこす羊飼いの杖を振り上げたのは、イスラエルをエジプトから救い出す奇跡のためでした。しかし、奇跡をおこす羊飼いの杖は礼拝する対象ではありませんでした。

【クリスチャンの物】

イエス様を信じる者として、クリスチャンにとっての聖なる物を考えるためモーセやアロンの杖の例を理解する価値があります。クリスチャンにとっての聖なる物は何もありません！ 多くのイエス様を信じる者が十字架をジュエリーとして身に着けています。多くの

イエス様を信じる者が十字架をジュエリーとして身に着けることは、イエス様が私たちの罪の贖いのためにご自身の血潮を流された十字架上の出来事を思い起こさせるだけでなく、私たちがキリストについてのこの福音を恥じていないことを示すものでもあります。十字架のジュエリー自体には何の力もありません。

<ローマ人への手紙 1 章 16 節>

私は、この福音を少しも恥じてはいません。福音は、それを信じる人をだれでも天国に導く、神の力ある手段です。福音は最初、ユダヤ人だけに伝えられていました。しかし今は、すべての国の人が同じ方法で神のもとに招かれているのです。

私たちクリスチャンは「聖なるもの」そのものだからです。私たちは皆、神様に仕える聖なる司祭です。使徒ペテロは、<ペテロの手紙 I 2 章 9 節>でクリスチャンにこう教えています。

<ペテロの手紙 I 2 章 9 節>

しかし、あなたがたはそうではありません。あなたがたは神から選ばれた王なる祭司であり、きよい民として神のものとされた人たちです。それはすべて、どうして自分が暗闇から神の驚くべき光へと招き入れられたかを、人々に語り伝えるためなのです。

この「全てのイエスキリストを信じている者という祭司」は、500 年以上の間プロテスタント教会を際立たせてきました。すべてのクリスチャンは、内側に聖霊なる神様がおられ、外側で神様の御言葉である聖書を学びます！すべてのクリスチャンは自分達の人生を方向付けるのに、完全無欠（罪を犯すことや過ちを犯すことができない）を主張する人間は必要ありません！もちろん、異なる召命のため、神様は奉仕のためにそれぞれの召命にあった唯一の賜物を与えられます。しかし、私たちは皆、イエス様のための聖なる司祭なのです。

また、使徒パウロがコリントのクリスチャンたちに<コリント人への手紙 I 6 章 19 節-20 節>で語りました。

<コリント人への手紙 I 6 章 19 節-20 節>

体は、神様があなたがたに与えてくださった聖霊の家であって、聖霊がそこに住んでおられるのです。あなたがたの体は、自分のものではありません。神様が多額の代価を払って、あなたがたを買い取ってくださったのです。ですから、あなたがたの体のどの部分も、神の栄光を現すために用いなさい。その所有者は神だからです。

【約束の地へ向かう間、契約の箱に集中する】

また、契約の箱には約束の地へ向かう特別な目的があったことがわかります。

<ヨシュア記 3 章（2 節） 3 節-4 節>

2・3・4 三日目に、指導者たちは野営地を巡って、人々に次のような命令を伝えました。「主の契約の箱（十戒を記した石板が納めてある）をかついでいる祭司たちの姿が見えたら、あとに従いなさい。これから行く所は見知らぬ地だから、祭司が先導するのです。

ただし、箱との間は、二千キュビト（約九百メートル）の距離を保ちなさい。それより近づいてはなりません。」

この目に見える礼拝の対象である契約の箱は、イスラエルの人々にとって見知らぬ地を行く道の道しるべでした。イスラエルの人々はイスラエルの人々の見知らぬ外国に引っ越していました。この時、イスラエル人は100万人いたかもしれませんが、エジプトを出た100万人は、荒野で不信仰のために皆死んでしまいましたが、その子どもたちはおそらくエジプトを出た100万人の数に匹敵していました。イスラエルの民は、主と主に任命された指導者への勇気と信仰をもって、前進しました。しかし、約束の地への戦いに進軍するとき、イスラエルの人々には道を示す契約の箱しかありませんでした。

<ヨシュア記3章（2節）（3節）4節>

2・3・4 三日目に、指導者たちは野営地を巡って、人々に次のような命令を伝えました。「主の契約の箱（十戒を記した石板が納めてある）をかついでいる祭司たちの姿が見えたら、あとに従いなさい。これから行く所は見知らぬ地だから、祭司が先導するのです。ただし、箱との間は、二千キュビト（約九百メートル）の距離を保ちなさい。それより近づいてはなりません。」

【約束の地、天国の栄光へ向かう間、イエス様に集中する】

クリスチャンは、イエス様についての経験からもっとイエス様を知るのに役立つ、神様の男性及び女性の証があります。私たちみんなを励ますため、私たちのために死んでくださった方のために生きるにはどうしたらいいのかをイエス様を証明し教える人達に学ぶことができます。しかし、イエス様とともに「人生を終え」て、イエス様について語るために戻ってきた人はいません。だれもいません。！ イエス様ご自身以外にはいません！

【今まで一度も行ったことのないところだから】

イスラエルの民の長旅や宗教的な旅が終わるのは、物理的な約束の地での敵との戦いの後だけです。神様はイスラエルの人々にヨルダン川を渡る混乱の中で見る聖なるもの（契約の箱）と指導者ヨシュアを与えました。

クリスチャンの約束の地は天国と呼ばれるかもしれませんが、私たちは約束の人、イエス様と共にいるための旅の途中なのです。イエス様は指導者であるだけでなく、私たちの礼拝の対象でもあります。目に見えない万物の国で、十字架の上で私たちの霊的な敵をすべて征服された唯一の主がおられます。……イエス様です！指導者であるイエス様も約束の地も、私たちにはまだ目では見えていません。

【すべてのクリスチャン兵士のための目に見えない神様】

クリスチャン兵士の勝利は、常に主ご自身との関係から始まり、主ご自身との関係で終わります。イエス様への私たちの愛は、私たちの霊的武具を結びつけるものです。使徒ペテロが< ペテロの手紙Ⅰ1章8節>で述べているとおりです。

< ペテロの手紙Ⅰ1章8節>

あなたがたは、イエス・キリストを見たことがないのに愛しており、いま見ていないのに信じています。そして、天からの、ことばに表せない栄光に満ちた喜びに浸っているのです。

【私たちの焦点 - 新しい契約の箱 - 神の御子イエス・キリスト】
＜ヨシュア記 3 章 5 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 3 章 5 節＞

5 それから、ヨシュアは人々に、それぞれ身をきよめるように命じ、「明日、主が偉大な奇跡を行われるから」と言いました。

クリスチャンは神様の無償の恩恵によって生きています。

＜ヤコブの手紙 4. 章 6 節＞

神は私たちに、すべての悪い欲望に立ち向かうための強い力を与えてくださいます。神は高慢な者を退け、謙遜な者に力をお与えになります。

しかし、私たちがイエス様に寄り添って歩むことは、私たちの人生に神様の偉大な不思議を常に加えることになります。私たちはイエス様を信じて新しく生まれ変わった日にイエス様の血潮によって聖められました。しかし私たちは、イエス様の御言葉と祈りの中でイエス様とともに過ごすことによって、心の純粋さを新たにする必要があります。

＜ヨシュア記 3 章 6 節-11 節＞

6 翌朝、ヨシュアは祭司たちに命じました。「契約の箱をかつぎ、先頭に立って川を渡りなさい。」言われたとおり、祭司たちは出発しました。

7 主はヨシュアに、「今日、あなたに大きな栄誉を授けよう。わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを、イスラエルの人々に知らせるためだ。

8 契約の箱をかつぐ祭司たちには、水ぎわに来たら水の中に立つよう命じなさい」と告げました。

9 ヨシュアは人々を召集し、語りました。「さあ、よく聞きなさい。主のことばを告げよう。

10 生ける神があなたがたのうちにおられ、カナン人、ヘテ人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、エモリ人、エブス人など、やがて占領する地の全住民を必ず追い払ってくださることが、今日、はっきりわかるだろう。

11 いいですか。全地の支配者である主の契約の箱が、先頭に立って、ヨルダン川を渡ろうとしている。

イスラエル人と今日のクリスチャンは、生ける神様があなたがたの間におられることを知る必要があります。 イエス様は次のように約束されました。

＜マタイの福音書 28 章 20 節＞

また、弟子となった者たちには、あなたがたに命じておいたすべての戒めを守るように教えなさい。わたしは世界の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます。」

その時代とは、イエス様の教会における聖霊なる神様の時代です。教会の携挙かイエス様の再臨は、イエス様の教会における聖霊なる神様の時代が終わったことを示していると言えます。

次にヨシュアは、神様が約束の地ですべての敵を追い払われると約束します。 イエス様は霊的な敵に対する勝利を約束してくださいましたが、私たちの苦闘のほとんどは、人生

そのものの物理的な出来事と関係しています。私たちが霊的な勝利を持っていても、私たちの人間性はしばしばイエス様の優しい愛のケアを必要とします.....とてもよくあることです。

【今まで一度も行ったことのないところだから】

神様はまた、私たちが見たこともないような試練やテストを通して、神様の子供たちと証明し、向上させることを選ばれます。私たち人間の弱さは、霊的な敵よりも難しいことが多いです。私たちはこの人生を一度だけ通って歩みます。もう一度人生を戻すことはできません。しかし、神様に赦された罪人として、目の前のまだ知らないことに関係なく、毎日がイエス様とともにある新しい日なのです。イエス様は私たちよりも先に行き、終わりを初めから知っておられます。

<ルカの福音書 9 章 23 節>で弟子たちに教えられたように、イエス様はもちろん困難な時代を予見しておられました。

<ルカの福音書 9 章 23 節>

それから、一同に言われました。「いいですか。わたしについて来たい人はだれでも、自分のつごうや利益を考えてはいけません。日々自分の十字架を背負い、わたしのあとについて来なさい。

<ヨシュア記 3 章 11 節>

11 いいですか。全地の支配者である主の契約の箱が、先頭に立って、ヨルダン川を渡るうとしている。

多くのキリスト教の歌や賛美歌は、ヨルダン川を死の象徴として使っています。こうして「ヨルダン川を渡る」は、死を通過して天国に行くように歌われます。「ヨルダン川を渡る」は、「死を通過して天国に行くこと」とは聖書的に受け入れられています。しかし、私は C. H. Spurgeon の「クリスチャンにとって死は恐怖ではない。死の前にあるつらい試練は、死がもたらすものよりもずっと大きい」。という言葉に同意します。だから、私たちが死に直面する前のヨルダン川には、私たちを導いて渡るイエス様の力が必要です。 <ヨハネの福音書 14 章 1 節-3 節>でイエス様が言われたとおりです。

<ヨハネの福音書 14 章 1 節-3 節>

1 「あなたがたは、どんなことがあっても、心配したりあわてたりしてはいけません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

2 父の住んでおられる所には、家がたくさんあります。もしなかったら、はっきり言っておいたでしょう。わたしは、あなたがたを迎える家を準備しに行くのです。

3 すっかり準備ができたなら迎えに来ます。わたしがいる所に、あなたがたもいられるようにするためです。

教会の救い主であられるイエス様は、約束どおり、いつか私たちのためにこの地上に戻って来られます。私たちの個人的な救い主であるイエス様は、すべての準備が整ったときに戻って来られます！教会を天国にもたらしため、あるいは死を通して、イエス様を信じている一人一人を主とともにいるように天国に連れて行くためです。

先ほど申し上げたように、人生の試練はクリスチャンにとって死よりもずっと辛いものだと信じます。私が言っているのは肉体的な痛みではなく、不確実な時をとおしてイエス様

に従うために十字架を背負い続けるときの、魂の内側にある痛みのことです！このような人生の試練には、常に大きな不安がつきまといます。私たちの最後の敵である死は、聖書の中では極めて単純なものであることが示されています。実際、私たちは神様の約束があります。

<コリント人への手紙Ⅰ 15章55節>

「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」（ホセア13・14）罪、すなわち死をもたらすとげは、ことごとく切り取られます。そして、罪をあばく律法も、もはや私たちをさばきません。

私は、イエス様が経験されたような私たちのゲッセマネの経験は、耐え忍び、信仰を継続するために、死よりも困難なことだと信じています。

<使徒の働き14章22節>

それぞれの町でクリスチャンたちに会い、ますます神を愛し、また互いに愛し合うように教え、どんな迫害にもくじけず、信仰にとどまり続けるようにと励ましました。そして、「神の国に入るには、いろいろ苦しい目に会わなければならない」と語りました。

イエス様が十字架への決断を神様の意志と格闘されたように、イエス様が経験されたような私たちのゲッセマネの経験は難しい決断の時です。私たちも、その試練の中に神様を見出すことが不可能に思えるような決断をすることがあるかもしれません！十字架を背負ってイエス様に従うクリスチャンも、神様に見捨てられたという感情を経験するかもしれません。イエス様が十字架上で<マタイの福音書27章46節>叫ばれたように、十字架を背負ってイエス様に従うクリスチャンたちは神様に見捨てられたという感情を経験し感じるかもしれません。

<マタイの福音書27章46節>

三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれました。それは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。

イエス様が私たちの罪を背負われて私たちのために有罪となられたとき、父なる神様は罪を背負われて完全な罪の贖いの犠牲となられたイエス様を見捨てられました。しかし、私たちはイエス様に見捨てられたとを感じるだけです。私たちを決して見捨てないというイエス様の約束は真実です！

最後にヨシュアは、ヨルダン川を渡って行くために、どのようにして成功し、勝利するかをイスラエルの民に語ります。

<ヨシュア記3章11節>

11 いいですか。全地の支配者である主の契約の箱が、先頭に立って、ヨルダン川を渡るうとしている。

イエス様は目に見えないですが、私たちはイエス様の血潮の新しい契約の箱、イエス・キリストに目を向けることができます。<ヘブル人への手紙12章2節>のように、私たちはイエス様に目を向け、焦点を合わせます。

<ヘブル人への手紙 12章2節>

あなたがたの信仰の指導者であり教師であるイエスから、目を離さないようにしなさい。イエスは後にある喜びを知って、恥辱をものともせず十字架にかかけられました。そして今は、神の王座の右に座しておられるのです。

イエス様はその完璧な従順の中で、始められたことを終えられたと示されました... 十字架に至るまで。イエス様は私たちの信仰を開始し、完成させる王者です。イエス様は私たちがヨルダン川を渡ることが不可能に思えるような多くのヨルダン川を渡れるようにしてください。もし私たちの信仰が小さすぎるなら、イエス様は私たちの信仰を成長させ、さらにより完全な信仰、もっとイエス様のような信仰にしてください。神様は、私たちの救い主であり主である御子イエス様に栄光をもたらすために、私たちの人生における疑念を取り上げることを得意とされます。祈りましょう！